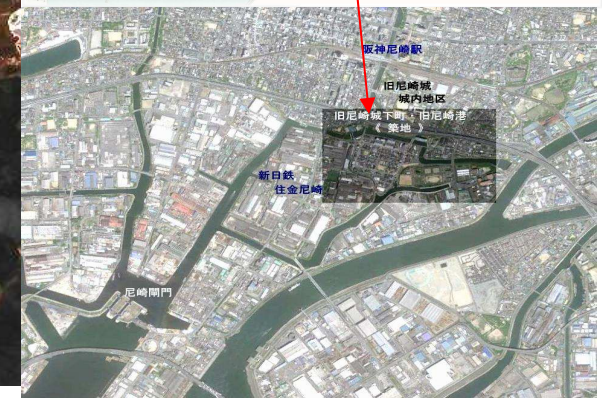
旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」

築地初島大神宮　だんじり と だんじりが ぶつかり合う「山あわせ」

2013.9.16.夜　by Mutsu Nakanishi

、



「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて　各町内の地車（地車と書いてだんじりと読む）が引き廻され、街を練る「だんじり祭」が行われている。

　私のふるさと尼崎にも　南部の旧尼崎の城下町に今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。

かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合いなどが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳しいルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技として「山あわせ」が行われている。

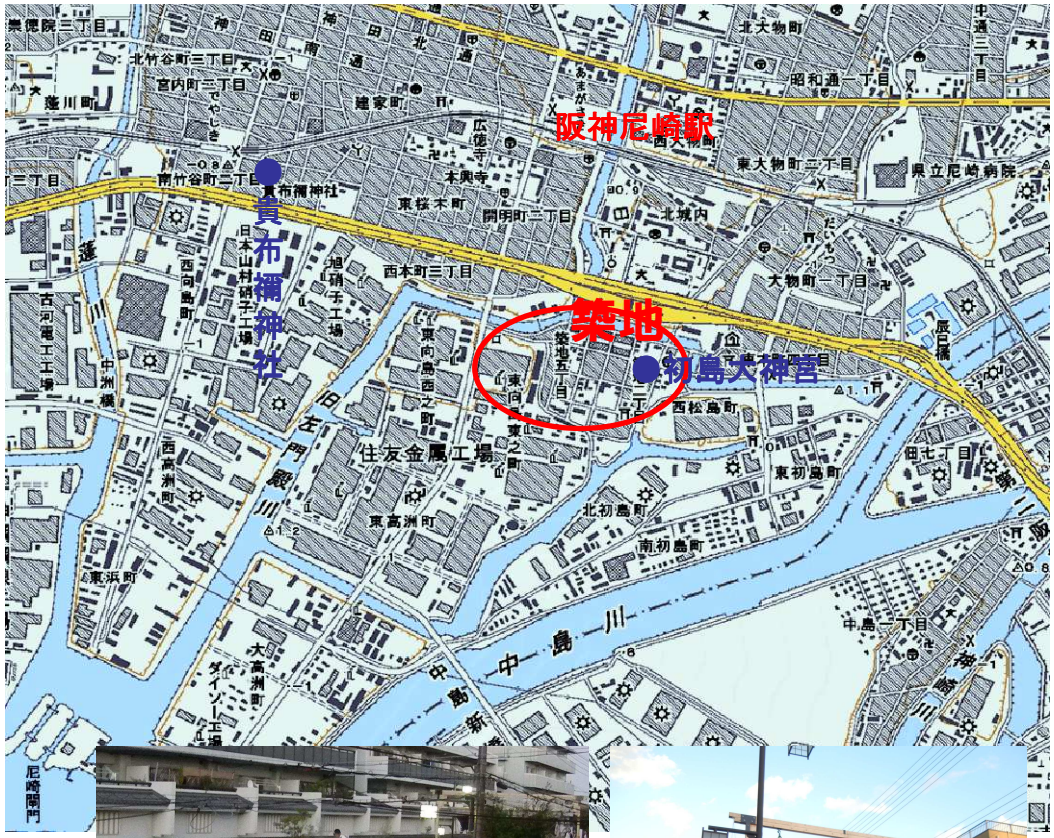
だんじり囃子が鳴り響く中、２台の地車が互いに前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく　肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。
子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽しみでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいていましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

一昨年の夏　尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。
そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば　ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

昨年はよう出かけませんでしたが、この9月16日の夕方　わくわくしながら、築地初嶋大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残る街。
この築地の南側　運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。
久しぶりに　「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



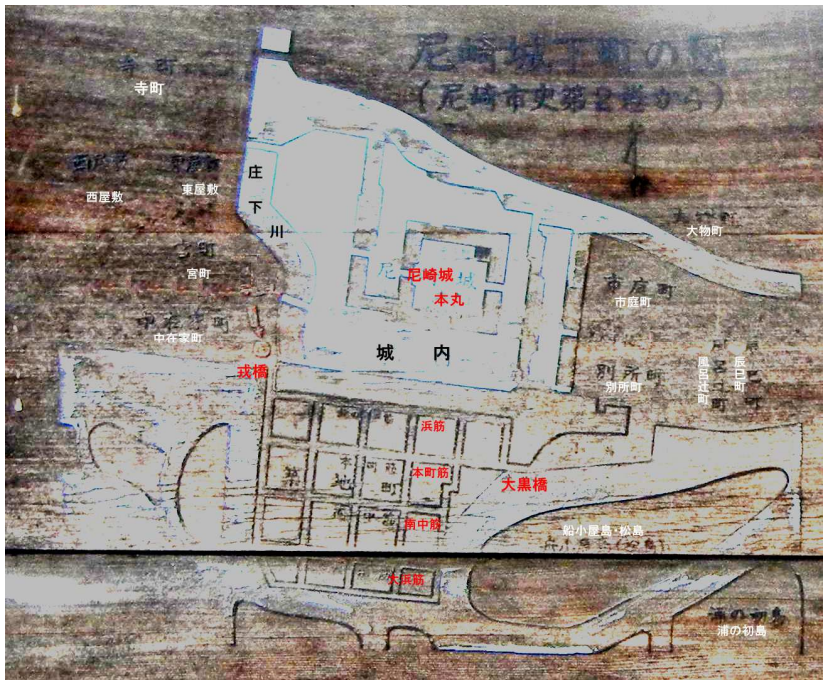
尼崎城下 築地町の西の入口　戎橋　2013.9.16

橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました

尼崎城下・築地町

この式橋の前には、尼崎城（[illegible]）[illegible]
[illegible]六一七）から築城
された大小二つの島が
[illegible]時代の[illegible]
[illegible]期頃ではありませんが、初代
[illegible]水浦から、次の藩主青山氏の時
代[illegible]
[illegible]ています。中国街道の東部は
大物町・市庭町を貫る道筋と、大
[illegible]
[illegible]ましたので、廃止さ
れ、城の東側から大黒橋を経て
[illegible]北に入り、この式橋を
[illegible]ました。大黒橋、式橋は
城が残されています。
また尼崎城、その南方には、
[illegible]りました。築地町の建設時期
は江戸田氏の時代には町割りと
になると本格的な建設が行わ
[illegible]時神崎の渡しから南下し、
[illegible]の佃島から辰巳町・別所町に
[illegible]が始まると、本丸の南に街道
[illegible]、城の東側から大黒橋を経て
[illegible]て城の西側へ回るコース
[illegible]に築地町の商家の商売繁栄を
願う二神から名称され、
特に築地町の南浜には
浜式社を勧請し、
現在も船島大神宮として
信仰厚く、祭られて
います。
葭島は東西四筋、
南北六筋の街路で碁盤
型にくぎられており、
一番北が浜筋（木屋筋）、
その南が本町筋（往還筋）
さらに南には南中筋、
大浜筋となっています。

戎下・築地町



築地への西の入口　戎橋ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年（1617）から築城された尼崎城、その南方には当時葭（あし）の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋（木屋筋）、その南が本町筋（往還筋）、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。

昔と今をオーバーラップ 尼崎

城下町と寺町

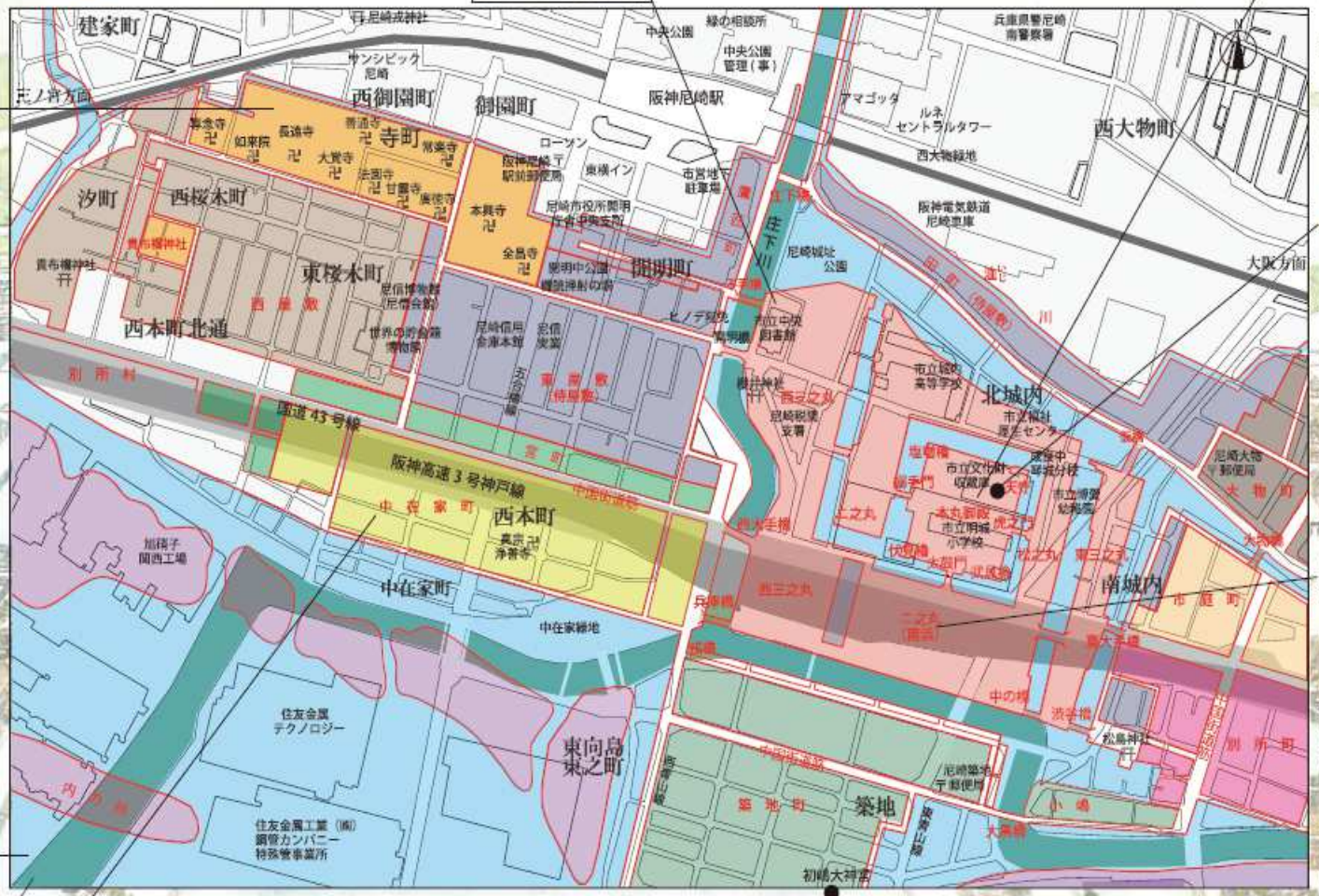
天正 18 年（1590）、豊臣秀吉が京都の東の京極に寺町をやったことをきっかけに、全国の城下町に数多くの寺町が建設されました。尼崎の寺町もその一つで、尼崎城築城の際に寺院が一箇所に集められました。

また城下町の前衛部分を軍事的に固めるためにも利用され、大きな建物と境内は出城の役割を担いました。

明治以降、都市化により昔の面影を失っていく中で、約 400 年間寺院の区画も当初のまま残されている尼崎の寺町は、今日において貴重な存在であり、多くの文化的遺産、歴史的資料が残っています。

↑江戸時代当時の海・川・堀
□赤字・赤枠＝江戸時代
（エリア・地名・建物等）

↑現在の川
□黒字・黒枠＝現在
（エリア・地名・建物等）



尼崎城

尼崎城は、二重・三重の堀で全体を螺旋状に構成しており、本丸には枡形虎口が設けられ防備の固さがうかがえます（裏表紙の絵を参照）。この設計は、江戸城や二条城・名古屋城に似ており、平地に築かれた典型的な近世城郭の構造で、江戸幕府の城としての特徴が表れています。また、水を巧みに利用した姿は、水に浮いているように見えることから「浮城、海城」と呼ばれたほか、「琴浦城」という別称もありました。

←当時を模して造られた城壁（現尼崎城址公園）

本丸（ほんまる）
本丸御殿（ほんまるごてん）

本丸は、約 120m 四方の方形で、城内の中心を占めています。本丸御殿は城主（藩主）の住居であり、同時に藩の政務や重要な儀式をとり行う場所でもありました。

天守（てんしゅ）

本丸の東北隅に東西約 18m、南北 14m の天守台があり、その上に高さ約 11m におよぶ、四重の天守がそびえていました。（表紙絵参照）

尼崎城天守閣遺跡（文化財収蔵庫敷地内）

三重櫓（さんじゅうやぐら）

本丸には東北隅の天守を除く 3 隅に三重の櫓があり、それぞれ武具櫓（南東）、伏見櫓［角櫓］（南西）、塩櫓（北西）と呼んでいました。

三方の門

東：虎之門（とらのもん）
南：太鼓門（たいこもん）
西：搦手門（からめてもん）

二之丸

二之丸御殿を始め、米を貯蔵する御城米蔵、厩が立ち並んでいました。

南浜

南浜には家老屋敷が並び、松平氏時代には五軒並んでいたことから、明治時代は五軒町と呼ばれていました。

松之丸

虎之門で本丸とつながり、鉄砲や弓の練習をする鉄場、火薬を貯蔵する塩硝蔵などがありました。

西三之丸

南浜と地続きで、二ノ丸とは土橋門でつながり上級家臣の屋敷や近習の長屋などが並んでいました。

東三之丸

東三之丸には、家老クラスの上級家臣の屋敷が連なっていました。北端にある仮橋門から対岸の侍屋敷である田町に仮橋がかけられ、東大手橋から続く大道が中国街道に繋がっていました。

城下中在家町（じょうかなかざいけちょう）

中在家町は、江戸時代初めの尼崎城築城にともない、寺町とともに城の西方に新しい町として作られました。尼崎は古くから漁業が盛んであり、江戸時代に入って綿作用肥料の干鰯の需要が増えると、イワシを求めて関東地方にまで出漁。そのため海に面した中在家町には生魚問屋をはじめ漁業関係の商人や漁師が多く居住し、城下では最も人口の多い町でした。

また、同町には魚市場があり、碇の水尾と呼ばれる南側の水路を通り、魚が近海や西国各地から入荷するとともに、城下や京都・大坂方面に売りさばいていました。

浦の初島 / 初嶋大神宮（はつしまだいじんぐう）

江戸時代以前、静かな海原に浮かぶ小舟、点在する幾多の岸辺る砂州の島々、白砂につらなる青松などから摂津の松島と詠われました。この景勝の地を多くの歌人達は「歌枕 浦の初島」と呼び、しげくこの地を往来したと言われています。初嶋大神宮には宝暦 5 年（1755）に、「古歌もあまたあれど、今またあらたに浦の初島と題して、京都の公卿 8 人に歌を所望する」とあり、現在 8 幅の歌が残されています。

1．阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通って築地へ　2013.9.16.

阪神尼崎駅の南東側　庄下川の東側に広がる城内地区　2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、
阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景　新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、
今では尼崎の新しい顔のひとつになっている。

阪神尼崎駅に降り立ったのは16時45分　築地だんじり祭の「山あわせ」は18時過ぎと聞く。
たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる庄下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通って築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい町づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変化していると聞く。築地の街やその南の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。
祭の前にちょっと歩いてみたい。

尼崎の景色が大きく変化する中で、変わらぬ姿にほっとする阪神尼崎車庫の倉庫　2013.9.16.

江戸の初め　西の守りとして　３重の堀に囲まれ、４層の天守閣を持つ水城があった

阪神尼崎駅南側　庄下川に面した城内地区　かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという

尼崎城を中心とした城下　町民の町8町　そして　城西の町（中在家・宮町）そして　城南の築地町には
300年続く庶民の祭「だんじり 祭」が今も受け継がれ、続いている。

庄下川沿い、現在は中央図書館になっているが、城壁が復元された尼崎城跡　2013.9.16.

城跡公園から振り返る北側の阪神尼崎駅　今はこんなに美しいところになっているのだと
子供の頃は　ここは県立尼崎病院だった　　2013.9.16.

尼崎市立
中央図書館

図書館の南側　開明橋のとおりに出ると昔にタイムスリップした感じ　　懐かしい古い建物が並んでいる　**2013.9.16.**
左手の南側は本丸があった辺りである

城内高校

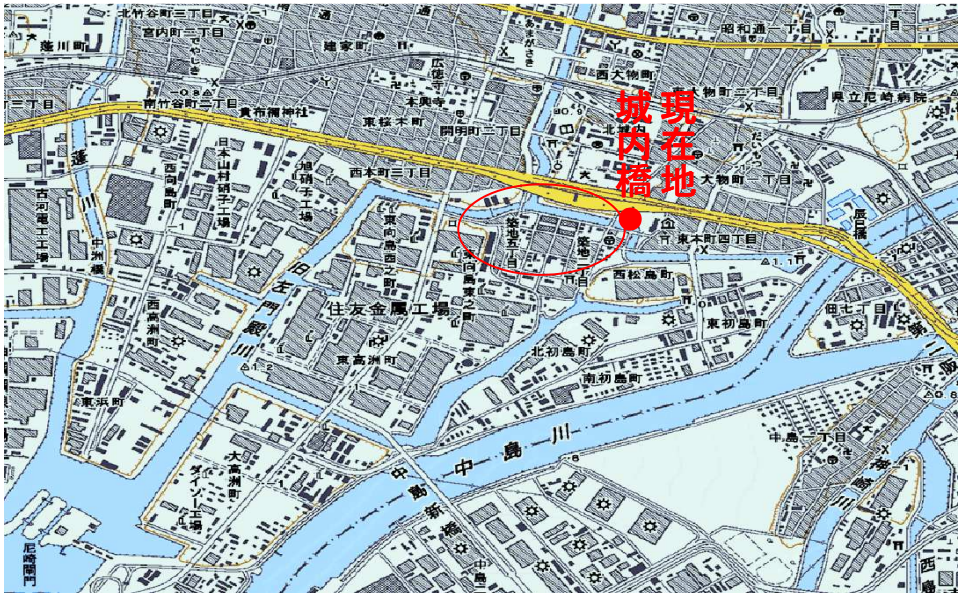
旧中央図書館

開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる　　2013.9.16.

ここはかつて　国鉄尼崎駅から南へ　金楽寺を通って　築地にあった尼崎港駅まで通じていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、　確か高校生の時代まで線路が残っていました
交通体系が大きく変化した今、　南には国道43号線の高架がみえ、その向こうに築地の高層住宅群が見えている

国道43号線の高架橋　この高架の向こうには庄下川河口から尼崎港を巡る運河が張りめくらされていて、
高架橋をくぐり、城内橋をわたると築地。　高架橋の向こうに だんじり の姿が見える　　2013.9.16.

国道43号線の高架橋下　築地の街への入り口
高架橋南の運河にかけられた城内橋を渡ると築地である　2013.9.16.



阪神高速の高架をくぐると　尼崎城下 築地町への入口　城内橋　2013.9.16

築地の北側を東西に流れる水路に架かる城内橋から西側を眺める　2013.9.16.

城下町「築地」尼崎市
築地の震災復興まちづくり
現在の築地地区
現在位置

築地の震災復興まちづくり

平成７年１月８日撮影

平成七年一月一七日、阪神・淡路大震災に伴う地盤の液状化により多大な被害を被った地区の住民は「まちづくりは住民の手で」を合い言葉に、震災復興まちづくりに取り組みました。

築地地区のまちづくりの目標は「明るく住み良い環境を保ち、災害に強い歴史文化的魅力のあるまちづくり」です。復興後も震災の記憶を忘れずに地区住民が一緒になってまちづくりに取り組んでいきます。

この写真は震災の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の地区の様子がよくわかります。尚、写真の中に書き込んだ町名は震災当時のものです。

現在の築地地区

現在位置
阪神高速道路神戸線
国道43号
南城内緑地
築地北住宅
庄下川
琴城橋
築地城内橋
戎橋
北浜緑地
大黒橋
築地戎橋緑地
築地本町住宅
旧左門殿川
築地福祉会館
本町通り（旧中国街道）
東町緑地
庄下川
築地５丁目
築地４丁目
築地３丁目
築地２丁目
築地１丁目
築地中通
こども公園
松島橋公園
築地保育所
尼崎市東部第一浄化センター
築地公園
初島大神宮
築地南浜住宅
１号棟
築地南浜住宅
２号棟
築地南浜住宅
３号棟
築地南浜緑地
東堀運河
0 25 50 100m

橋を渡って　街中へ入らず　運河沿いを東へ
運河の向こうに　大官町･小嶋　二つの地車が見えている

山嶋
山嶋
大宮町
青年会

ひとつ通りを南に行くとほん町通り　かつての中国街道・往還筋
通りには提灯が飾り付けられていて、西へ少し行けば初嶋大神宮

南に地車が見えるので　其処までいってからお宮さんへ

運河がカギ状に曲がる角　向こう側に　　尼崎浄化センターがある広い公園の端に本町一丁目の地車がいる　　ここがほぼ、築地の東端。
初嶋大神宮へお参りしようと西へ戻る

すぐ西側に細長いひろばがあり、ここが「山あわせ」が行われる松島公園
「山あわせ」は6時30分頃からと教えてもらった。
街のあちこちで　法被姿の地車の引き手の姿にであう　　まだ、17時　随分時間がある

「山あわせには　せまいなぁ」ときになりましたが、「山あわせ」では人は公園の中には入れず、公園の周囲から、見るのだという。「山あわせ」 がやれるように作った公園で、公園の周囲には取り囲む柵、南側には公園を見渡せる斜面・高台になっていると友達に教えてもらいました。

公園の西端にも地車が見える　丸嶋の地車でした

この公園沿いの道をぐるりと回りこむと初嶋大神宮の正面に

この通りが、築地の大浜筋　かつては海に面し　向かいには大小の島が浮かぶ景勝地　「浦の初島」と呼ばれていたという。

また、鳥居の両側の常夜燈は文化年間　生魚を京都で売りさばいたり、御所に納めていた仲買商仲間が寄進したものという

祭にしては夜店もないなぁ　と意外でしたが、　神社の西の通りから、
本町筋にびっしり夜店が出ていました。

東向島工場群を巡る運河Walk
2013.9.16.夕　17:10

初島大神宮のすぐ南は向島　高潮防備の防潮堤を張り巡らせた住友鋼管

夕暮れ　向島の周囲を取り囲む運河の縁を久しぶりにぶらぶ歩きました

阪神尼崎駅
城内地区
国道43号線
築地
初嶋大神宮
住友鋼管東向島
（現日鉄住金）
現在地
五合橋線
中島新橋
日本山村硝子工場
旭硝子工場
西本町三丁目
東向島西之町
東向島東之町
築地五丁目
築地二丁目
西松
旧左門殿川
住友金属工場
現在地
東高洲町
北初島町
南初島町
中島川
中島新橋
大高洲町

日本山村硝子工場
旭硝子工場
西本町三丁目
東向島西之町
東向島東
築地五丁目
築地二丁目
西松
旧左門殿川
住友金属工場
現在地
東高洲町
北初島町
南初島町
大高洲町
中島川
中島新橋

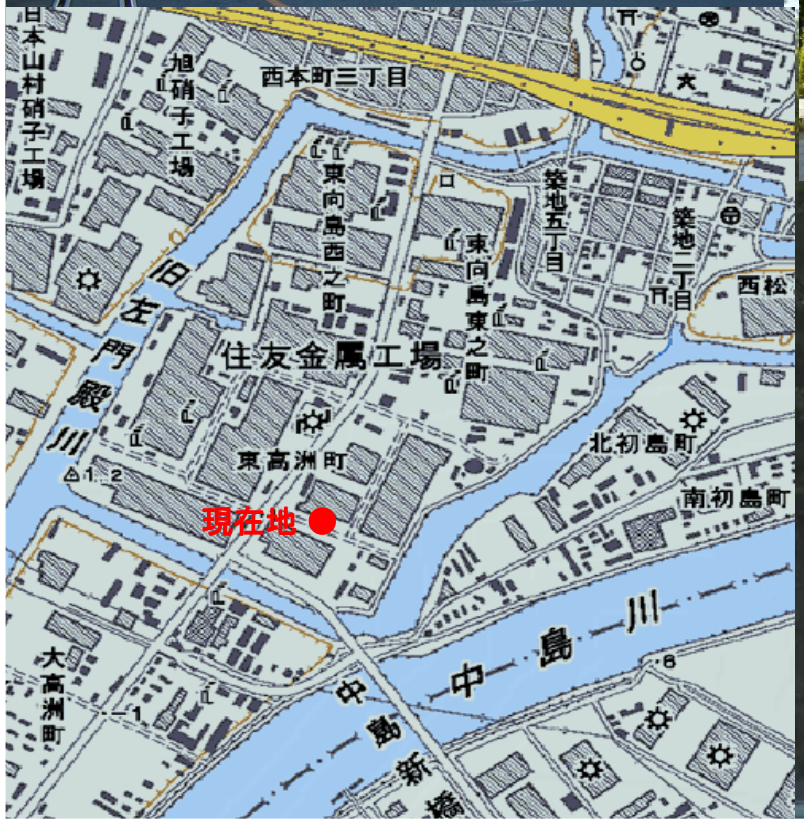
この門扉は通路
通水口点検
出入口です

東向島運河沿いから中島新橋　その奥　阪神湾岸線　尼崎港に掛かる大橋　2013.9.16.

東向島運河沿いから北側の遠望　工場建屋の向こうが築地　2013.9.16.

久しぶりに見る工場内運搬車用線路　　2013.9.16.

かつては長い鋼管を満載して幾台も連結した運搬車がひつきりなし
工場には「カーンカーン」と鋼管同士が接して発する甲高い音・クレーンの音など　　活
気ある音が鳴り響いていましたが・・・・


日本山村硝子工場
旭硝子工場
西本町三丁目
東向島西之町
東向島東之町
築地五丁目
築地二丁目
西松
旧左門殿川
住友金属工場
東高洲町
北初島町
南初島町
現在地
中島川
中島新橋
大高洲町

全国労働衛生週間
10月1日▶7日
健康管理
進める広げる
職場から

自動車レーン
原付レーン

向島の真ん中を南北に尼崎港へ結ぶ五合橋線　大高洲橋の北側に出る　17:20　2013.9.16.

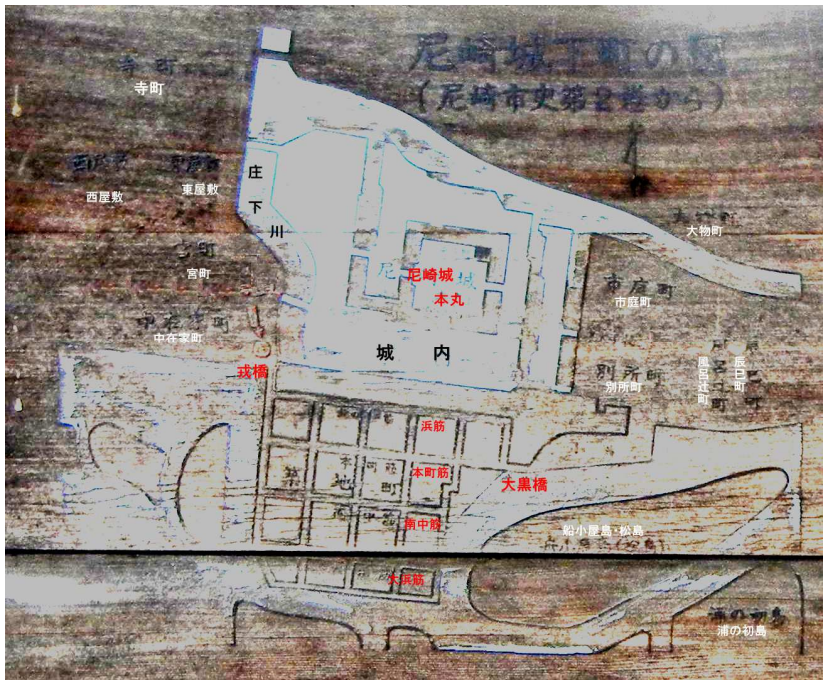
五合橋線を北へ　住友鋼管の工場群の中をぬけて　築地へ向かう　2013.9.16.

30分ほどの東向島の運河をあるきました
本当に新しい街づくりで　ウォーターフロントは美しくなりました
築地橋の夕日がも格別でした

いったん　国道43号線まで出て、庄下川の川岸から南へ
築地の西の入口に掛かる戎橋から築地に入りました　　17:43

尼崎城下 築地町の西の入口　戎橋　2013.9.16

橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました



初島大神宮横ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

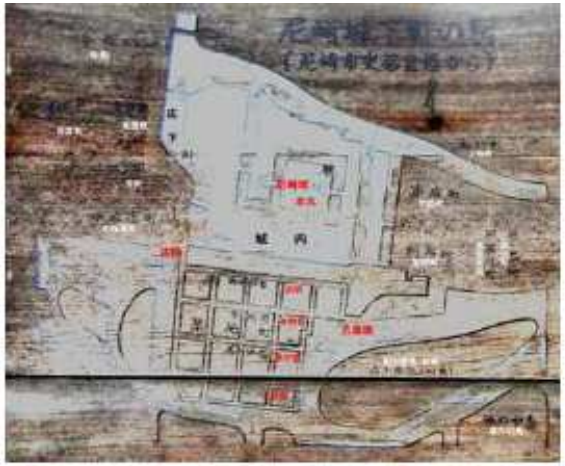
この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年（1617）から築城された尼崎城、その南方には当時葭（あし）の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋（木屋筋）、その南が本町筋（往還筋）、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。

築地本通を山あわせに向かう だんじり

いよいよ「築地 だんじり 祭」の「本祭」が始まり、築地の街も最高潮



いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ

築地
本三
築地
本三

そろそろ街中もにぎやかになってきました
本通を歩いていて、築地だんじり祭りを誘ってくれた友達に出会って、
「　ええところへ来た　　大神宮でお払い受けてから、一杯やって
それから「山あわせ」に」と　　ご馳走になった

FamilyMart

FamilyMart
酒
銀行ATM

くじびき

社殿に登って　御祓いを受けるのは　何十年ぶりか　巫女さんが剣を持って舞い、
頭にかざしてもらった鈴が「チリチリ」と鳴って　邪気を祓ってくれる
子供の頃といつしょだなぁ・・・・と

街には「山あわせ」に向かう地車まのだんじり囃子の音が響き渡り、にぎわってきた
築地　本町通で2013.9.16.

陽も落ちて　夕闇が迫る
街に だんじり 囃子が響き渡り
各町内の地車が 築地本通に
集まってきて、行ったりきたり。
本通りは人垣ができ、お祭り
ムードで溢れかえる

ひとしきり本通りを練った
だんじりは「山あわせ」場へ

いよいよ　だんじり 祭の
クライマックス「山あわせ」

南浜

だんじり 囃子を聞きながら、友人宅で　一杯よばれて

19時を過ぎて「山あわせ」も進んでいるだろうと「山あわせ場」へ向かう
山あわせ場は人波でびっしり
だんじり囃子が鳴り響き、向き合う地車の対戦が行われていました

心浮き浮きで見やすい場所を探す

2013年 築地 だんじり 祭「山あわせ」

だんじり 囃子が鳴り響く中、２台の地車が互いに前方部を傾け、
肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に乗せ、
相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。
軽快な だんじり 囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く 「見たかったのは これや」と。 童心に返って楽しみました

鳴一
大宮町
南浜
本三
鳴五

嶋
一
大宮町
南浜
本三
五嶋

一
宮町
南浜
三
五

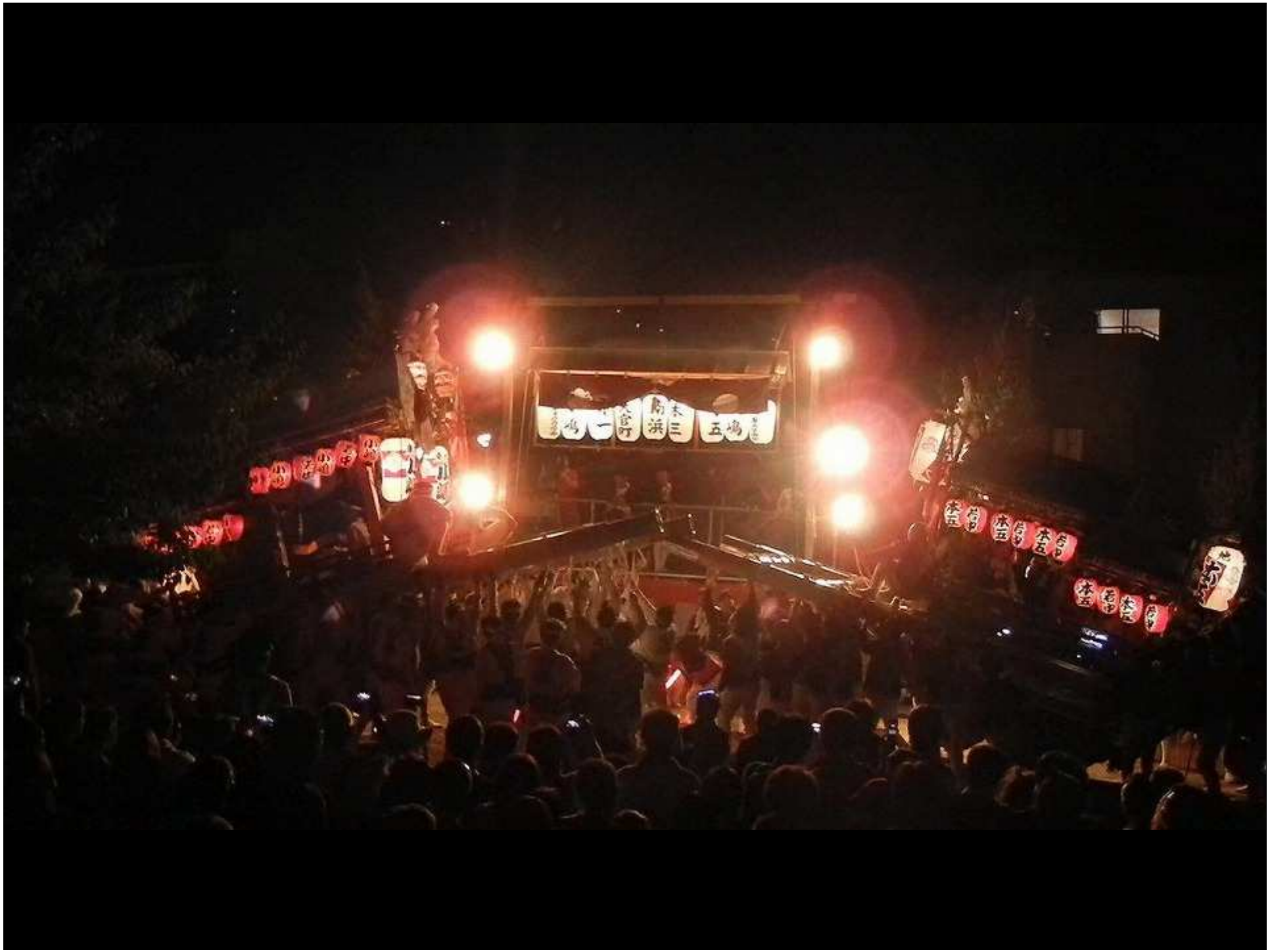
一
三
五

一
三
五

本
本
丸鳴
春中
丸鳴
春中

熱気が入りすぎて、いざこざも
世話役たち・審判員　そして　警察官たちが、すぐに中央に割って入る
ルール規制の中でこの山あわせが行われていることが、よくわかる

手締めで締めて　また　山あわせが再開



一宮町
南浜
三本
五嶋

嶋
一
大官町
南浜
本三
五嶋
本五
本五
本五
本五

嶋
一
官町
南浜
本三
五
嶋
本五
本五
本五
石中

嶋
一
大宮町
南浜
本三
五
嶋

東本宮
小嶋

鳴
一
大官町
南浜
本三
五鳴

五嶋
三本
南浜
本五

南浜
三
五嶋

鳴
一
大宮
本
三
五
鳴

嶋
一
八幡宮町
南浜
本三
五
嶋
地
本五

大宮町
南浜
本三
五嶋

9時を回って　興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了

「山あわせ」が終わって　みんな満足感一杯の顔
2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了
地車はそれぞれ　築地の街中へ繰り出していって　祭りのフィナーレを楽しむ

築地 だんじり 祭　フィナーレ　　築地本通りで
だんじり 囃子が街に鳴り響き、繰り出した人たちと だんじり が一体になって
祭の余韻を楽しむ

地蔵
地蔵
地蔵
丸鳥
公会
若中

神燈
神燈
神燈
神燈
神燈
神燈
神燈
神燈
神燈
出張
出張

祭地
南浜

山鳥
地遊会

祭地
南浜

若中
本五

山鳥
山鳥
山鳥

本
中

南府
南府
南風南
山嶋
山嶋

五
南
涼
三
小鳥

築地初島大神宮　だんじり祭　　2013 年 9 月 16 日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと　子供の頃を思い出しつの　血が騒ぐ祭でした
興奮で　いまだに　だんじり 囃子のリズムが耳についています

【参考　和鉄の道　Country walk 】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
   50数年ぶり　だんじり と暴れ太鼓の宮入
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf
2. 工都尼崎を支える「尼崎港　閘門（尼崎）ロック」walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf